

平成 22 年 3 月 27 日
春季合同フォーラム
於：湯島聖堂

～ 実践哲学者・山田方谷 ～

「足るを知る」の確認

今日は春季合同フォーラムに参加戴き有難うございます。

中斎塾フォーラムでは、必ずお聞きする言葉がございます。始めて参加される方もおられますので、少し説明致します。中斎塾フォーラムは、足るを知る・ほどほどでいこうという考え方を知らず知らずのうちに身につけることを目的にしています。もっと・もっと・・・を追求していくと、そのうち破滅が近づきます。ほどほどのところで止めなければいけません。足るを知るという考え方が知らず知らずのうちに身につけているかどうか、確認する言葉をお聞きしています。

昨日一日、朝起きてから寝るまでの間、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

毎日嘘をついていると、小沢さんみたいな顔になりますから氣をつけましょう。

昨日は良い日だったと思われる方、どれくらいおられますか？

・・・はい、有難うございます。

夜寝る時に、今日は嫌な日だったと思うと、必ず翌日にひびきます。今日お出で戴いている皆さんの中で、おそらく一番良い笑顔をされているのは、先ほどご挨拶を戴いた石川顧問ではないでしょうか。やはり人間だんだん磨かれてくると、笑顔が本当に人を魅了します。

この質問のポイントは、嫌なことと良いことの数と比較して決めるのではなく、嫌なことが沢山あっても良いことが少しあれば、今日は良い日だったと思って眠ると良いと思います。

昨日一日、有難うと言い、有難うと言われたかどうか？

・・・はい、有難うございます。

「有難う」と人さまに言うことは皆さんよく実行しておられますが、「有難う」と言われるのはなかなか難しい。誰かに何かしてあげなければ、「有難う」は返ってきません。

これらの質問を、私は毎晩確認して眠るようにしています。皆様にもお勧めします。こ

れらが実行できていくと、世の中は確実に明るくなっていく。自分自身も健康になり、良くなっていくと思っています。

実践哲学者・山田方谷

では、本題に入ります。

哲学について、私が師匠と仰いだ木内信胤先生は、「哲学っていうのはねえ、どうやって生きていくかを考える学問だよ。」とおっしゃっていました。つまり、人生を如何に生きるか、どう生きていきたいか、そういうものを詰めて考えていけばよいのです。

又、先生は「学問は日常生活に役に立たなきゃ、学問とは言わないよ」とも言っておられました。一般の人が常識だと思っているものを体系づけたものが学問であるから、日常生活に役に立たない学問は、皆、似非学問だと教えて戴きました。

人生の目的 家名再興

人間には寿命があり、節目があります。節目を追いながら山田方谷の人生を考えてまいります。

人間が生きる上で目的を持っていなければいけません。人生の目的を持っていると、よく考えられるし、よく動けるし、よく結果に出ます。山田方谷の人生の目的は、大きく5つ考えられます。

山田方谷は14歳で母親の梶を亡くし、15歳で父親を亡くしました。妹は方谷が8歳の時に亡くなり、弟は45歳の時に亡くなっています。両親亡きあと家を継ぎ、17歳で結婚をしています。22歳の時に長女瑳奇(さき)が生まれましたが、32歳の時に亡くしています。奥さんとは45歳で離婚しています。ですから山田方谷は家族の縁が薄いと申しますか、家庭的には不遇であったと思います。

物心ついてから、学問で身を立てて家名再興を果たして欲しいという両親の強い願いがあって、それをそのまま我が身に受けました。物心ついた時から大きくなるまでは、家名再興が生きる目的だったわけです。

21歳の時に当時のお殿様である板倉勝職(かつつね)に認められて、二人扶ち(一日に玄米1升)を支給され、学問によって身を立てるという糸口が大きく開かれました。25歳で名字帯刀を許され、藩校の会頭(今の教頭先生)に抜擢されました。これで家名再興という人生の生きる目的は一つ達したわけです。

ただ解釈する際に、25歳ではあまりにも若過ぎると思うなら、校長先生になった年が

32 歳ですから、そこで親の言った家名再興が出来て人生の目的も達したと考えてもよいと思います。

教育者として生きる

家名再興という人生の目的も達して、それで終りということはありませんでした。その次に生まれてきたのは、教育に対する情熱です。これは、学問に対する狂ったような情熱だと感じます。弟から家業が苦しいという内容の手紙を貰った方谷は、「学問に対する情熱は止みがたい。田地田畑を売るのであればすべて売っても構わないから、今は学問をしたい」と返信しています。

山田方谷が一番強く惹かれたのは陽明学です。29 歳の時に王陽明の『伝習録』を読み、陽明学に傾倒しました。一所懸命学んだ後、32 歳で備中松山藩に戻って藩校の学頭になります。

第二の人生としては、非常に良い人生を歩んでいると思います。ちなみにこの時代の寿命は、36 歳くらいです。この頃の平均寿命については、乳幼児はカウントしないとか、色々不確定な要素があってはっきり出ていませんが、明治 13 年の平均寿命は男性が 36 歳、女性が 38 歳という数字が出ていました。いずれにしても 36 歳くらいの寿命の時代に、32 歳で校長になって 45 歳まで続けていますから、第二の人生は教育者として素晴らしい人生を送ったと言えるはずです。

藩政改革

40 歳の時に、板倉勝静が備中松山藩に入封し、方谷は勝静に帝王学を教え込んでいきます。45 歳の時には勝静が藩主になり、元締役兼吟味役を命じられます。もう老人の域に達している年齢ですが、そこから方谷の藩政改革が始まったわけです。

そこで、先ほど野島先生がお話された七大改革で、見る見るうちに備中松山藩を立て直してゆきます。当時の備中松山藩は、今の時代に換算すると年商 20 億円くらいの会社が 100 億円の借金をしている状況でした。この数字については色々な説があります。10 万両を 200 億円という先生もおられますし、野島先生は 600 億円と言っておられました。計算方法が分からないのです。私も日銀の貨幣博物館に行って調べたり、元日銀総裁にもお聞きしましたが、これが決定打というものはなかなか難しい。野島先生の場合は税のプロですから、当時の租税の面から現地に即した計算で出された数字だと思っています。

いずれにしても、野島先生の数字で言うと 600 億あった借金を 7 年数ヶ月で完済し、尚且つ 600 億の貯金をしました。それだけ見ても、もの凄い実績を上げた人ということにな

ります。元締役(今の大蔵大臣)、と吟味役(今の事務次官)を命ぜられたのが45歳の年の暮れで、実際に改革を始めたのが翌年ですから、46歳から7年数ヶ月に渡って必死になって改革に取り組んだわけです。57歳で元締役を辞め、58歳で隠居を許されます。ですから方谷の人生において46歳から58迄の間は、前半は滅茶苦茶に改革に熱中し、後半は緩やかに改革に当たったわけです。

最初の人生の目的は家名再興、次いで教育に傾注し、次いで藩政改革に尽力するという3つの人生を過ごしたわけです。

無血開城・その後、教育者として

方谷が64歳の時に、備中松山藩は朝敵となり、城の明渡しを迫られます。方谷は藩と君主を守るべく抵抗勢力を説得し、官軍に対してもきちんと応対して、無血開城を果たしました。そのあたりが方谷の人生の大きな区切りで、社会的な動きは一段落したと思います。無血開城と言っても、熊田恰(くまだあたか)が切腹することによって、血を流さないうで済んだわけです。

その後は、73歳で亡くなりますが、閑谷学校の再興など、完全に教育者としての動きでした。

山田方谷は、36歳という寿命の時代に72歳まで生きて、5つの人生を過ごした人だと捉えています。そしてそれは、それぞれ<自分の人生の目的はこれだ>と思い定めて動いているから、色々な人生が全うできたのだと思います。

山田方谷の考え方を現代に活かす

山田方谷のものの考え方を現代に取り入れる方法は何か考えてみましょう。

理財論と擬対策

私が書かせて戴いた『財政破綻を救う 山田方谷「理財論」』(小学館文庫)と『陽明学のすすめ 山田方谷「擬対策」』(明德出版社)に詳しく書いてありますので、お読み戴きたいと存じます。

「理財論」の中で、「国家がまともに進まない時には、トップが素晴らしい人物でなければいけない。そしてそれを代行するナンバー2が素晴らしい人物でなければいけない」と書いています。日本で考えれば、内閣総理大臣とそれを補佐する大臣が、良いコンビを組んで進んでいかなければ、国家は良くなるということなのです。

又、「国民が飢え死にするような状況を考えても、他の国に侵略されるほど辛いことは

ない」と書いています。飢え死にする危険よりは、他の国家に侵略される方が大変問題であるという事を説いています。

これはそのまま今の日本に当てはまります。民主党の鳩山首相と小沢幹事長、二人とも素晴らしい人物であれば日本の未来は明るいということでしょうが、どうも正反対ですから、日本の未来は暗いと言っているように私は理財論から見ます。

公約をして実行を迫る事によって物事は進んでいくと思うのですが、出来ないことを公約すると、普天間問題のように困ったことになります。陽明学は行動の学問ですから、私は普天間基地の話が出た途端に、とんで行きました。琉球の王様のお墓が並んでいる所に行くと、そこには私流に解釈すると、明治維新のどさくさに紛れて日本は琉球王国を吸収合併してしまったというようなことが書かれていました。今、アメリカやロシアが世界各国で民族紛争を起こして、自分達の軍事基地を造りたいと手を打っています。そういうことを考えると、アメリカが沖縄を独立させて誰に憚ることなく軍事基地を造るという筋書きが、見えないところで起きているであろうと感じます。

話が反れましたが、他所の国に侵略されるとその国の国民は悲惨なことになるということ、方谷が30歳の時に「理財論」で書いています。

もう一つ、「擬対策」から申します。「風俗が乱れて、上に立つべき人達が賄賂・汚職ばかりしていると、国は確実に滅亡する」とあります。

最近の日本の状況を見てみますと、国会議員さん達はお金を取り過ぎです。本気で国会議員になろうと思う人は、今貰っているお給料を半分にすべきですし、それを公約に掲げるべきです。この前の選挙では、当選してたった2日間だけの在籍で1ヶ月分のお給料を貰ったのですから、とんでもない話です。地方議会の議員さんに伺うと、そんな馬鹿なことをしているのは国会議員だけだそうです。何か国家の為になることをしようという時には、まず自らの身を半分削って、それを国民に分かせなければ誰もついて来ません。

山田方谷は自分のお給料をばっさり削って、しかも自分の家計を情報公開しています。当時は、大蔵大臣のような任に就けば、賄賂や貢ぎ物で蔵が建つということが当たり前でした。方谷は賄賂を禁止すると公言し、自分の家計をガラス張りにしましたから、領民たちも言うことをきくようになったわけです。

人の縁

先日、『脳に悪い7つの習慣』という本を読みました。人間が産まれた時から持っている基本的な欲求(本能)は3つあるそうです。一つは、知りたいという欲求。二つ目は生

きたいという欲求。三つ目は仲間を作りたいという欲求です。

仲間が欲しいという欲求は、世の中に貢献し世の中の役に立つことが嬉しいと思う仕組みが脳の中にあるということです。世の中の役に立っていると実感できればできるほど、脳が喜ぶ。つまり本人が気持ちが良い・嬉しいと感じるわけです。

そう考えると、現代の、「儲かった」とか「損した」ばかりの世の中は、世の中の方が狂ってきているのであって、赤ん坊の時から摺り込まれている「世の中の役に立つことが嬉しい」という欲求を全面に出していけば、世の中は平和になると思います。

方谷が受けた縁を見てみましょう。

両親

方谷が子供として両親をどう慕っていたか、家訓が残っています。『陽明学のすすめ』の中にそのまま入れてあります。

山田家はもともと武家の出でした。それが、方谷の曾祖父が問題を起こして農民になりました。父親の時代には半農半商でしたが、あっという間に才覚を現し長百姓になりました。子供に対する教育は熱心で、方谷が15歳の時に亡くなっていますが、遺言で方谷に残した文章があります。忠孝にはげみ、家業を怠ることなく務め、儉約をすること、礼儀を重んじること、起床時間や就寝時間、男女間の交遊まで、細かに書き残しています。その元になる家訓もあります。詳しくは本をご覧くださいと存じますが、凄まじいスパルタ教育です。方谷が5歳の時には、隣の藩の丸川松隠という先生のところに入門させています。両親の学問に対するお金のかけ方、情熱の注ぎ方は大変なものでした。当然、方谷が両親から受けた影響は凄まじいものでした。

山田方谷は数え年73歳で亡くなりますが、亡くなる前の年に自分の母親について、又母親に対する想いを切々と綴った碑をこしらえています。ですから両親に対する、特に母親に対する想いは並々ならぬものがあると感じます。

師匠・弟子・友人

佐藤一斎は『言志四録』の中で、「人間がものになるには、良い本を師とする・良い人格を持った人を師匠とする・天地自然を師とする」と言っています。

山田方谷で考えると、良い本は陽明学の伝習録に出会っています。良い師匠は、丸川松隠という人に出会っていますし、その後は佐藤一斎に出会っています。

佐藤一斎の弟子には、竜虎と言われる山田方谷と佐久間象山がいます。山田方谷のお弟子さんは三島中洲と河井継之助、佐久間象山のお弟子さんは小林虎三郎と吉田松陰です。

山田方谷と佐久間象山は、よく議論をしたようです。佐久間象山は態度が横柄で喧嘩を吹っ掛けてくるようなタイプの人でしたから、一番学識があり理論的だった山田方谷を負かしてやろうと議論を仕掛けるのですが、いつの間にか論破されてしまうという、良いライバルの間柄だったようです。

人の縁で考えると、佐久間象山、弟子の河井継之助と三島中洲、小林虎三郎と吉田松陰、師匠として丸川松隠・佐藤一斎、友人関係では春日潜庵といった人達が、山田方谷の一生の中で大きな要素を占めていると思っています。

人の縁で、その人がどういう方向に行くかはっきりすると思います。

私が教えて戴いた石川梅次郎先生は「深澤君、師匠というものは死ぬものだよ」とおっしゃいました。何でもかんでも師匠に聞けば教えてくれると思っていると、師匠が亡くなってしまった時にどうしてよいか分からなくなってしまう。先生は、「同じくらいのレベルの仲間と話し合いをしながら、人生を全うしてゆくことが出来た」と言っておられました。

そういうことを教えてくれる先生、また同じようなことを語る友人を一所懸命作らなければいけないと思っています。この人は、と思う人がいたなら、より深い付き合いをするように自分で努力していくべきだと思います。

ちなみに自分の周りを見回して、自分の友達を分けて戴くとよろしいでしょう。例えば、あの友達はお酒を飲む人・この友達是一緒に出掛ける人・この人は共に勉強する人・・・という具合です。全部のグループに入る人というのはなかなか難しいようですから、いくつかに分類されると良いでしょう。

幸福の実感

鳩山総理は今度ブータンに倣って幸福度を調べたいと言っています。ブータンとは違うものになるでしょうが、今の民主党政権の中で幸福度の調査をどのようにやるのか、楽しみにしています。

皆さんにお聞きします。今、自分が幸せだと思っている方はどれくらいおられるでしょうか。

(・・・沢山手が挙がる)

幸せだなあと思うと、幸せが増殖します。幸せ増殖のポイントは、足るを知る心です。

では、山田方谷の幸福度は何だったのか考えましょう。

26歳の時に、お師匠さんと伊勢神宮を参拝しています。師匠と弟子が水入らずで旅をしたのですから、楽しかったろうと思います。

それから、自分の娘の小雪が生まれてだんだん大きく育ってゆく。小雪の存在が楽しみだったろうし、癒しだったと思います。小雪は方谷が50歳の時にできた子供です。方谷が68歳の時に亡くなってしまいましたが、小雪の誕生は、幸福をつくづく実感するものだったと思います。

又、方谷の幸福度を上げるのに、かかせないのはお酒と漢詩です。方谷の作った漢詩の中に女性に関するものが少しあります。玄人の方とお付き合いをしているような漢詩もありました。ですから、それなりに発散をしていたのだらうと思います。

何と言っても方谷の最大の幸福の実感は、改革の達成だと思います。何か事業を興して、それが達成できた時の達成感、何ものにも変えがたい幸福をもたらしたと思っています。

まとめ

山田方谷の人生を通じて、我々の現代に活かすことは何か。

やはり、生きる目的を明確に持つことだと思います。これは両親から与えられたものでよいし、自分自身が学びの中から掴み取ったものでよいと思います。或いは事業を興すこと、こういう事業を達成したいと思うものでよいでしょう。如何なる理由、如何なる動機でもよいから、人生如何に生きるべきかということを明確に考え、そして実行する。生きる目的を明確に持って、それを達成してゆく。そういう人生が送れたら素晴らしいと思います。山田方谷はそれを達成した人だと思っています。その結果をとして生まれているのは、素晴らしいものばかりです。

山田方谷の人生のまとめ（結果）をみると、最初の目的だった山田家の再興は達成しました。次に教育者の道は、良い弟子が沢山生まれました。藩政改革を命ぜられて、これも達成しました。日本の歴史の中でずば抜けて一番の凄まじい藩政改革を成功させました。朝敵になった時には備中松山藩を無血開城しました。最後に、母親の実家である西谷家の再興も果たしました。これも結果としては素晴らしいものです。

但し、マイナス面としては家庭が不遇だったということと、公は素晴らしい収入でしたが、自分の個人の家計はどんどん貧乏になっていきましたから、そこらへんはマイナスの部分かと思っています。しかしトータルしてみると、何という素晴らしい人生かと感じます。

改めて自分自身を振り返ってお考え下さい。自分の生きる目的はこれだと明確に言い、かつ実行できる方は、素晴らしい人生を生きていると言って過言ではありません。一緒に、寿命をめいっぱい使って素晴らしい人生を送りたいと思います。

お時間でございます。本日のお話を終了させて頂きます。大変有難うございました。